令和5年度

日和佐中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○基礎的・基本的な知識・技能を習得し，生徒の主体的な学習を促す授業の実践

○言語活動の充実を図り，思考力を高め，自己表現力・コミュニケーション能力を高める授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員
土壁　文雄

委員
・校長（総括）：米田　茂生　　・藤川　尚巳
・教頭（総務）：松葉　真裕美　・喜井　和子
・百々　史存

校長
米田　茂生　　印

【小中連携または中高連携における共通の取組】

「主体的・対話的で深い学び」の充実を図り，思考力・表現力を伸ばす授業を構築する。

【各校における実行プランの取組状況の把握について】

管理職による授業参観やオープンクラス等，さまざまな機会を捉え，取組状況の把握を行う。

❶次の（１）～（３）をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

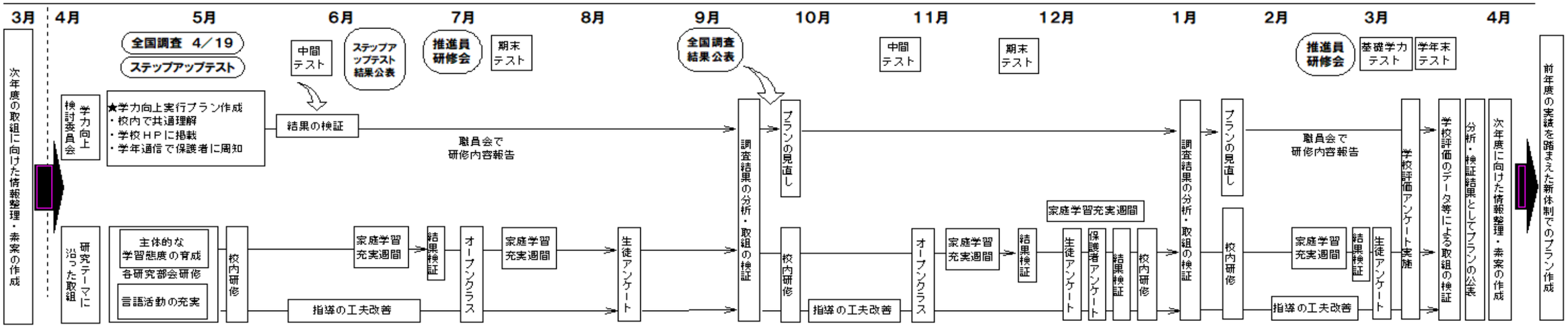
（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能を習得するための課題にまじめに取り組むことができる生徒が多い。 ●授業や課題にはまじめに取り組んでいるものの，基礎・基本が定着していない生徒がいる。	・学習の過程を通して習得した知識・技能を，他の学習や生活の場面で活用することができる。 ・毎日の宿題や課題を確実にやり切ることができる。	・定期テスト前に基礎・基本の小テストを実施し，不合格者には再テスト等で粘り強く基礎・基本の定着を図る。 ・生活記録指導において，語彙力と作文力を身につけさせる。	・基礎，基本を振り返る機会を増やすとともに，小テスト等の取組を強化し，個々に応じた知識・技能の習得を図っていく。また，語彙力や作文力を高めるために，生活記録指導を継続して行う。	・各教科の授業において小テスト等を実施したことで基礎・基本を振り返らせる機会を多く取ることができた。 ・生活記録指導については，熱心な取り組みができており，基礎学力向上の一助となっている。	・身に付けた知識等を他の学習や生活の場面で活用する機会を設け，主体的・対話的で深い学びにつなげる実践を行う。 ・語彙力を向上させるために新聞等を題材により社会性のある語彙や表現を身に付ける必要がある。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○興味や関心がある学習内容について，自ら考えて豊かに表現することができる生徒が多い。 ●話すこと・書くことやテスト等の記述問題・応用問題に対して苦手意識が強く，無回答率の高さに課題がある。	・目的に応じて，根拠や理由を明らかにしながら，自分の考えをわかりやすく話したり書いたりすることができる。 ・探求的で粘り強く課題に取り組み，深い思考力や豊かな表現力を身につけることができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設け，思考や考察の過程における言語活動を充実させる。 ・ICT等を効果的に活用し，視覚的に内容を理解させ，生徒が興味をもち自ら考えてみようとする授業を創造する。	・ペア学習（日中トーク）やグループ学習等で，互いの意見を発表し合う機会を多く取り入れることで，自分の意見をより深めていく。さらに，友人の意見を判断力や表現力の参考にできるよう指導助言を行う。	・ペア学習（日中トーク等）やグループ学習の機会を適切に設定することができた。 ・帰りの学活でスピーチをしたり，さわやか集会などで意見を発信したりする機会を設けることで，自分の思いを伝えることができた。	・グループ学習等での話し合い活動の流れを各教科・学年で統一できるところはするなど，より効果的な実践を継続して行う。 ・深い思考力や豊かな表現力を身に付けさせるための授業計画の改善を進め，さらなる育成を図る。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○与えられた役割や課題に真面目に取り組むことができ，宿題等の提出率も高い。 ●授業に対して受け身の姿勢の生徒が多い。また，自分から課題を見つけて学習することに課題がある。	・課題や自主学習に積極的に取り組み，学ぶ楽しさや喜びを感じることができ，自信をもつことができる。 ・自分の学習状況をしっかりと振り返り，家庭学習に意欲的・計画的に取り組むことができる。（「家庭学習の記録」の活用）	・生徒の主体的な活動や体験を授業に多く取り入れ，何を・どのように学ぶのかが伝わるように，授業のめあてを提示する。 ・「家庭学習の記録」を記入させ，毎日目を通し，必要な支援を行う。	・授業で達成できなかった内容を自主的に判断し，解決するために「家庭学習の記録」に代えて「自主学習ノート」に積極的に取り組むよう指導する。 ・進路指導や面談を行うことで将来の夢（短期的目標と長期的目標）に向かって，地道に学習に取り組む姿勢を培う。	・ほとんどの生徒は毎日，「自主学習ノート」を提出することができた。一方，生徒の課題設定が不適切であったり，課題設定を教員側から提示する際，内容が画一的になったりしがちだった。	・学習時間を十分確保できない生徒のために ICT を利用するなど基礎学力定着システムを構築する必要がある。それにより，教員が生徒に対して習熟度別に課題を提示する必要がある。

令和5年度　学力向上ロードマップ